

研修報告書No. 1

所 属：東邦大学医療センター佐倉病院

氏 名：2年目研修医 園川 卓海

研修先：医療法人聖真会 渭南病院

特定医療法人長生会 大井田病院

四万十町国民健康保険大正診療所

4月4日から1ヶ月間上記3施設で研修させていただきました。非常に楽しくあっという間に終わってしまったというのが正直な感想です。

はじめの2週間お世話になりました渭南病院は急性期医療から在宅医療まで幅広い診療を展開している高知県最南端の土佐清水市の中核病院です。幅広い診療を行うには決してマンパワーが十分とは言えない中での医療でしたが、先生方1人1人の幅の広い診療は驚きでした。骨折の患者さんを診ていたかと思えば、翌日には手術の執刀、翌日の内科・外傷の外来ではその合間を縫って内視鏡検査、と分野に制限を感じさせない診療は驚きでした。「なんでもあり」と院長先生はおっしゃっていましたが、本当にその通りの医療を目の当たりにしました。昨今では総合診療というものがピックアップされ、総合診療の専門医が新たに設置されたことで話題になることが多いです。しかし、大学病院で研修しているだけではイメージがつきにくく、総合診療専門医の立ち位置もなかなかはっきりしないといった状況です。そのような中で、高知県の渭南病院に来て、本当の意味での総合診療医の姿を見た気がしました。「一つの処置で大きな病院へ1時間以上かけて行ってもらうことを考えると、自分たちの出来る幅を増やした方がいい」その言葉にすべてが詰まっていると思いました。

また、渭南病院では関節注射やCV、腹腔穿刺など多くの手技も勉強させていただきました。先生方は実際の手技の方法だけでなく、イメージや考え方まで教えていただき大変勉強になりました。

大正診療所でも2日間という短い期間でしたが多くの症例を経験させていただきました。2日目には無医村への往診にも同行させていただきました。高知県は無医村数が全国で3番目に多いそうで、地域医療の在り方や医療配分の難しさを痛感しました。無医村の公民館に車で出向き、聴診器1つで診療を行う先生の姿を見て、患者さんとの会話や診察の大切さを学びました。また、地域の住民の方と病院外でたまたま話す機会もありお話をもらったところ、住民の方は大正診療所のスタッフほぼ全員のこと知っており、診療所の医療が本当に地域に根づいているのだなと不思議な感銘を受けました。

4月後半に研修させてもらった大井田病院は幡多地区西部の宿毛市にあり、こちらも急性期医療から在宅医療まで幅広い診療で地域医療を支えている病院です。きさくな院長先

生はじめ優しいスタッフの方々が多くとても楽しい研修でした。大井田病院で研修させていただいてまず驚いたことは他病院・診療所、救急との情報の共有です。患者さんの情報を一つ同じ電子カルテ上で共有することで、重複診療の抑制や医療機能の分担を図るそうです。初めて見るシステムだったので非常に新鮮でした。また、訪問看護や訪問診療、地域包括支援センターでの訪問にも同行させていただき、地域全体で医療ネットワークの必要性を感じたのと同時に、今後の高齢化社会において都会なども地域に関わらずそういった医療、介護、福祉の3つの連携が重要になってくることを感じました。私は関東の大学病院に所属しており、さらに退院後の外来も担当していない研修医の身からすると、退院後の生活を見る機会がほぼありません。そのような意味で、大井田病院の研修で介護、福祉の現場スタッフの方と行動を共にする機会があったことは非常に大きな経験となりました。

最後に日々の高知観光はとても楽しく、高知の魅力を肌で感じることができました。足摺岬から四万十川や仁淀川、また高知市内や桂浜、室戸岬、柏島、竜串海岸など多くの名所に足を運ぶことができました。病院のスタッフの方は忙しい中、たくさんの観光情報も教えてくれました。

病院研修と観光を通して、温かい人間関係と豊かな自然が高知県が一番の魅力だと感じました。このような研修の場をいただき、本当にありがとうございました。